

基本目標	共通目標 持続可能な都市経営のまち
施策分野	③協働
施策の内容	魅力ある情報発信
施策の内容	・若い世代の市政への関心を高めるため、まちづくりや市政に関する情報を積極的に提供する等、市民に伝えるべき情報と市民が欲しい情報とのバランスに留意しつつ、新たな情報提供手段による発信機会を充実します。
主な事業	●情報発信充実事業 (広報みずほ、ホームページ等による情報提供の充実、情報発信に関するガイドライン策定事業)

目標値									
目標指標	単位	H27 (基準)	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (見込)	R7 (目標)	R12 (目標)
広報、ホームページの情報満足度 (「満足している」と答えた人の割合)	%	-	35.9	16.7	18.5	21.3	20	30	35

担当課	H28自己評価	H29自己評価	H30自己評価	H31自己評価
総合政策課	<p>広報、ホームページ等による情報発信は、他自治体のものを調査研究し、年々充実した内容となっており、満足度の上昇へとつながった。</p> <p>地方創生事業である「穂積駅圏域拠点化構想策定事業」においては、FaceBookを立ち上げ、穂積駅を中心とした、街の情報を発信した。</p> <p>市の魅力発信サイトでは、朝日大学生による、中山道等の情報発信や、各種行事の情報等を出来る限り早く情報が伝わるように努めた。</p> <p>又、防災メールを活用したイベント等の情報発信も行った。</p> <p>今後も市民が欲しい情報とのバランスを考え、積極的な情報発信を進めたい。</p>	<p>平成28年度に引き続き、地方創生事業である「穂積駅圏域拠点化構想策定事業」において、FaceBookにて穂積駅を中心とした、街の情報を発信した。</p> <p>市の魅力発信サイトは情報の更新が停滞気味となり、これにより満足度が下がったと考えられる。平成30年度は朝日大学の研究室との連携をより強固なものとし、市の魅力発信サイトの記事の充実を図りたい。さらにPR動画の登場する「マンボ」を紹介することで市の独自性、魅力を広くPRする。</p> <p>防災メールに「イベント」枠を設け、イベント情報のみを必要とする方に情報が行き届くようにしたい。</p>	<p>地方創生事業である「穂積駅圏域拠点化構想策定事業」において、FaceBookにて穂積駅を中心とした、街の情報を発信した。</p> <p>平成29年度に更新が停滞していた市の魅力発信サイトでは、朝日大学経営学部の畦地教授の研究室から42記事の提供を受け、「マンボ」・図書館・住民・歴史遺産・郷土の偉人など市の魅力を取り上げた。これにより前回のアンケートよりもポイントが微増したものと考えられる。令和元年度も引き続き畦地研究室と連携を行い、学生の視点による市の魅力発信をしていきたい。</p>	<p>地方創生事業である「穂積駅圏域拠点化構想策定事業」において、FaceBookにて穂積駅を中心とした、街の情報を発信した。</p> <p>市の魅力発信サイトでは、朝日大学経営学部の畦地教授の研究室から30以上の記事の提供を受け、「マンボ」、「みずほバス」、「市の施設」、「市の歴史」、「コミュニティ」などの話題を取り上げた。これにより前回のアンケートよりもポイントが前年に引き続き微増したものと考えられる。令和2年度も引き続き畦地研究室と連携を行い、学生の視点による市の魅力発信をしていきたい。</p>

経営学部、畦地真太郎研究室との連携

平成25年度

平成27年度

平成28年度

平成30年度

魅力発信サイト内「写真ニュース」への記事提供（研究室所属の学生によるフィールドワークの成果物）

魅力発信サイト内「写真ニュース」への記事提供（マンボ、図書館、住民、かきりんがくる、ちょっと気になる瑞穂だね、瑞穂市ゆかりの人々）

令和元年度

更新日:2019年11月29日

平成25年度

瑞穂市の発信する情報に関するメディア認知についての調査および報告書の作成

市で平成26年度にホームページリニューアルを行った。リニューアルのために平成25年度に朝日大学と連携し、瑞穂市のホームページに関するアンケートを行った。当該調査における「質問紙構築・分析・執筆」を畦地氏が担当した。

平成27年度

若年層の結婚への意識啓発事業（地方創生トークショー「照英が語る！結婚生活の素晴らしさ」）におけるアンケートの慣習と分析、分析結果報告書の作成

- 市内の若者を対象に「結婚・妊娠・出産・子育て」への機運の醸成を行うことを目的とする。若年層未婚者が多く集まる朝日大学と連携し、同大学でトークショーを実施し、終了後に若者が結婚への具体的なイメージを持ち、自分の中での結婚観をある程度持つことができたかを測定した。

広報みずほ平成27年12月号



移住定住情報提供事業（「瑞穂市魅力発信サイト」構築）における朝日大学経営学部学生による調査

- 魅力発信サイト構築のため、畦地教授の講義を受講する学生らに瑞穂市を探索・調査してもらい、その成果をもとに魅力発信サイトを構築した。昔から市内に住んでいる人以外の目線で瑞穂市の魅力の調査を依頼した。

平成28年度

魅力発信サイト内「写真ニュース」への記事提供
（研究室所属の学生によるフィールドワークの成果物）

※下の表の画像をクリックすると記事にリンクします。



美江寺宿の今と昔	第1回	第2回	第3回
----------	-----	-----	-----



- [中山道美江寺宿の魅力語る](#)
- [美江寺宿の今と昔 \(1\) \(2\) \(3\)](#)
- [自転車で征く西濃中山道 \(1\) \(2\) \(3\) \(4\) \(5\) \(6\)](#)
- [朝日大生の目で見えた瑞穂市あれこれ \(1\) \(2\) \(3\) \(4\)](#)
- [美江寺あれこれ聞き歩き・全3回 \(1\) \(2\) \(3\)](#)
- [美江寺と墨俣・旧宿場町比較・全3回 \(1\) \(2\) \(3\)](#)

平成30年度

魅力発信サイト内「写真ニュース」への記事提供
(畦地教授による研究コラム、研究室所属の学生によるフィールドワークの成果物)





かきりんがくる	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回

ちよつと気になる瑞穂だね	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回

瑞穂市ゆかりの人々	第1回	第2回	第3回

- 瑞穂市のマンボ探検・全8回 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)
- 瑞穂市のすごい図書館・全4回 (1) (2) (3) (4)
- 瑞穂市の新・新旧・旧住民・全4回 (1) (2) (3) (4)
- かきりんがくる・全8回 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)
- ちょっと気になる瑞穂だね・全10回 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)
- 瑞穂市ゆかりの人々・全3回 (1) (2) (3)

令和元年度

魅力発信サイト内「写真ニュース」への記事提供
(畦地教授による研究コラム、研究室所属の学生によるフィールドワークの成果物)



千里の道もマンボから	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回

かきりんバ	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回

ス
の
旅



あ
ま
り
知
ら
な
い
施
設
に
行
こ
う

第 1 回



第 2 回



- 導入 (年度はじめのご挨拶)
- 千里の道もマンボから・全 8 回 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)
- かきりんバスの旅・全 7 回 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)
- あまり知らない施設に行こう・現在連載中 (1) (2)

基本目標	共通目標 持続可能な都市経営のまち
施策分野	③協働
施策の内容	市民の参加・参画機会の充実
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市民の積極的な参加・参画を促し、市民のアイデアや意見の反映を促進します。 市民がそれぞれの立場でまちづくりに関わっていくためのステップアップの仕組みや参加・参画の新たな手法により、若い世代でも参加しやすい環境を整備します。
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり基本条例推進事業 (ガイドライン策定、市民ワークショップ、ワールドカフェ等の開催)

目標値									
目標指標	単位	H27 (基準)	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (見込)	R7 (目標)	R12 (目標)
若い世代(40歳以下)の市政への参加・参画割合(審議会委員の40歳以下の割合)	%	-	31.7	34.0	24.0	30.8	15	25	30

担当課	H28自己評価	H29自己評価	H30自己評価	H31自己評価
総合政策課	地方創生事業である「穂積駅圏域拠点化構想策定事業」を通じて、毎週水曜日に市民の自由参加のワイワイ会議を開催、JR穂積駅周辺のまちづくりについて、22回のワークショップを実施する他、市内の中学生15名に参加してもらい、駅周辺のまち歩きと構想づくりワークショップを開催した。	「まちづくり基本条例推進委員会」の実績が出なかった。昨年度と同様に「JR穂積駅圏域拠点化構想推進事業」を通して、28回のワイワイ会議を開催。少年リーダーや朝日大生が参加した「魅力マップ作成づくり」などにより、市民協働の取り組みを進めた。ワイワイ会議は、地域づくり組織への成長を模索しており、自己資金の回収をスタートし、来年度以降は、資金の活用や事業運営の自立化の検討などを行っていく。「施策の内容」に準拠した取り組みを継続的に取り組んでいる。	H30、R1年度は「JR穂積駅圏域拠点化構想推進事業」の中で、駅周辺の自治会やまちづくりに興味がある方々、事業者と様々な取組（ほづみ夜市、一方通行化社会実験、自治会ワークショップ、ワイワイ会議）をとおして連携を強化してきました。令和2年度は、この連携をより強化・発展させ、「駅周辺の生活利便の向上やにぎわい創出などを考え、行動できる組織（まちづくり組織）」の設立を目指します。	
市民協働安全課	地域づくり組織（エリア・マネジメント組織）に関するシンポジウムを朝日大学にて開催。 「まちづくり条例推進委員会」の開催に到っていないが、まちづくりに関する生の声を機会を多く得ることができた。		市民協働安全課ができ、「まちづくり基本条例」に基づいた市民参画の機会として、小学校区ごとにタウンミーティングを開催した。 「市民協働」の理解不足や「ワークショップ」の経験不足など、課題は多々あるが、市民協働は一朝一夕で成し得るものではないので、地道な積み重ねの中で、市民協働の意識の醸成と市民協働の事業化へ繋げていきたい。	昨年度に引き続き、「まちづくり基本条例」に基づいた市民参画の機会として、小学校区ごとにタウンミーティングを開催した。 引き続き実施し、市民協働の意識の醸成と市民協働の事業化へ繋げていきたい。アンケート結果では、ワークショップで話し合うことの意義は十分理解されているので、今後も改善点を見直しながら実施する。 本田小校区においては、若年層をターゲットとしたタウンミーティングを開催し、今後、他校区へと拡げていきたい。

みんなの気持ちをつなげて ～タウンミーティング報告書～

各小学校区ごとの地域の課題をテーマにワークショップが行われました。限られた時間の中で、どの校区でも活発な交流ができました。「地域の課題を解決するために自分が出来ることは？」仲間と一緒に考えることって、みんなの気持ちをつなげるためにとても大切なだと改めて感じる機会となりました。ほら、地域の中にたくさんのまちづくりの芽が顔を出しています。

8月3日 生津校区 通学路の安全確保

参加者全員で通学路を中心に交通安全、防犯、災害などの視点で、危険な箇所について確認。子どもの安全は市民一人ひとりが見守ること。地下道の清掃なども地域で取り組めると良い。地域で話し合うことでも意識が高まる。子どもたちの安全確保のために、声かけから始めよう。



【参加者 市民17人・職員等21人】

7月31日 穂積校区 地域で取り組む子どもたちが健やかに育つ環境づくり

子どもたち、若者、地域の人にもっとまちに関心を持ってもらいたい。地域の歴史や地域の取り組みも知らない人が多いので、みんながつながるネットワークが必要。子どもたちと地域が繋がれば、あいさつも自然にできる。子どもたちを中心に楽しいことをしよう。



【参加者 市民18人・職員等26人】

8月6日 中校区 要介護度のうち軽度の「要支援1、2」対象者への、自治会としての介護の役割と、福祉協力員の増員について



個人情報の問題もあり、支援の必要な人の把握が難しい。でも、地域の中には市役所の把握できない支援の必要な人がいる。サロンなどの今ある居場所等を活用し、地域のコミュニケーションの場を大切に情報連携することで地域が繋がっていく。地縁を生かして自分たちができることをしたい。

【参加者 市民11人・職員等19人】

8月2日 牛牧校区 高齢者の買い物、通院支援とみずほバスの利便性向上について



高齢者にとっては、将来、買い物や通院にマイカー移動ができなくなることを考えるととても不安。正確なニーズ把握と分析で地域にあった事業が必要。動きやすい、利用しやすいものにするためには、住民が考えることが大切。地域のつながりにより関心を高め、支える人を増やしていきたい。

【参加者 市民22人・職員等23人】

タウンミーティングは「瑞穂市まちづくり基本条例」に基づき行いました！

この条例はまちづくりの基本理念を定めたものです。市民参画による「協働」のまちづくりを推進することを目的としています。

条例では、協働を次のように定義しています。

【協働】

「地域又は社会の課題の解決を図るため、市民が相互に、又は市民、市議会及び市の執行機関がともに、お互いの立場を尊重し、かつ、信頼し、協力して取り組むこと」

条例の目的を果たすため、また、小学校区ごとの地域課題の解決に向けて、市民の皆さんと行政がタウンミーティングで一緒に話し合いました。

『それぞれの立場でできることは何なのか』を一緒に考えながら、市民協働によるまちづくりは、一步一步進んでいきます。



タウンミーティングを地域の絆づくりにつなげよう！

タウンミーティングで市民の皆さんにお伝えしたかったことがもう1つあります。それは、**地域コミュニティや地域の絆の大切さ**です。

市民のみなさんは、『瑞穂市で生活している』という共通項で結ばれています。ベッドタウンと言われている瑞穂市ですが、皆さんにとって生活の拠点であることには違いありません。子どもたちや高齢者の普段の生活は、より地域に密着しています。

そんな瑞穂市にもっとこだわってもよいのではないのでしょうか。「どうしたらみんなの望むまちになるのか」を皆さんで考えてもいいのではないのでしょうか。

地域の中のさまざまな立場の人が集まって、地域のことを語り、地域課題に立ち向かうこと。タウンミーティングとは、ただそれだけのことです。でも、そこからすべては始まります。そして、このタウンミーティングを今後のまちづくりへつなげていかなくてはなりません。それが直接「地域コミュニティ」や「地域の絆」を作っていくことになるのではないのでしょうか。

タウンミーティングによって芽生えた市民の皆さん一人ひとりの気持ちを、地域の中で大きく育てていただけるよう、市民協働で!みんなで!がんばりましょう!

●問い合わせ 市民協働安全課 ☎327-4130

8月7日 南校区

災害への備えについて

- ・風水害、地震等に対する市の取り組み
- ・地面が低く浸水する地域の水害対策や改善計画
- ・災害への備えとして自治会として準備しておくもの



土地の低い地域として水害を中心に災害への備えについて話し合った。転入者も多く、地域の水害の歴史を知らない人も多い。過去の水害の状況を確認したり、ハザードマップで情報を適切に共有すること。発災

時には、誰が何をどうするかをルールを決めるべき。早めの対応ができれば、一人暮らしの高齢者など地域の人々で助け合える。横のつながりを大切に。

【参加者 市民32人・職員等24人】

8月8日 本田校区

本田小校区内の防災意識を高めるためには

防災意識は自治会や個人によって温度差がある。いかに無関心な人の意識を上げるかだが、新しく来た人の中には、地域の行事に出ないのが当り前の人もいます。まずは自治会など地域で集まることが大事。災害時も顔なじみはほっとけない。結局は仲間づくり。世代を越えて地域でつながり、防災意識を高めて行こう。

【参加者 市民40人・職員等19人】



8月10日 西校区

いつまでも元気な地域づくり

- ・人口減少に歯止めをかけるには
- ・住み良い環境づくり
- ・参加しやすい子ども会活動などの自治会行事



西校区の魅力は、きれいな水と静かな環境がある上に、交通や買い物などにも比較的便利で、暮らすにはちょうど良いバランスがあること。他にも歴史や柿などたくさんの魅力がありますが、一番の宝物は、近所づきあいが良く、みんな知り合いで仲良しなこと。地域に育てられた子どもたちには、地域への恩返しの気持ちも育っています。柿など農業には厳しい現状もありますが、若い人の意見を聞いて、子どもも若い世代も高齢者も輝ける地域にしたい。

【参加者 市民23人・職員等19人】

タウンミーティングではたくさんのご意見ありがとうございました。紙面に限りがありますので詳細はホームページに掲載しておりますのでご確認ください。



市民協働のまちを目指して…

特集

タウンミーティング



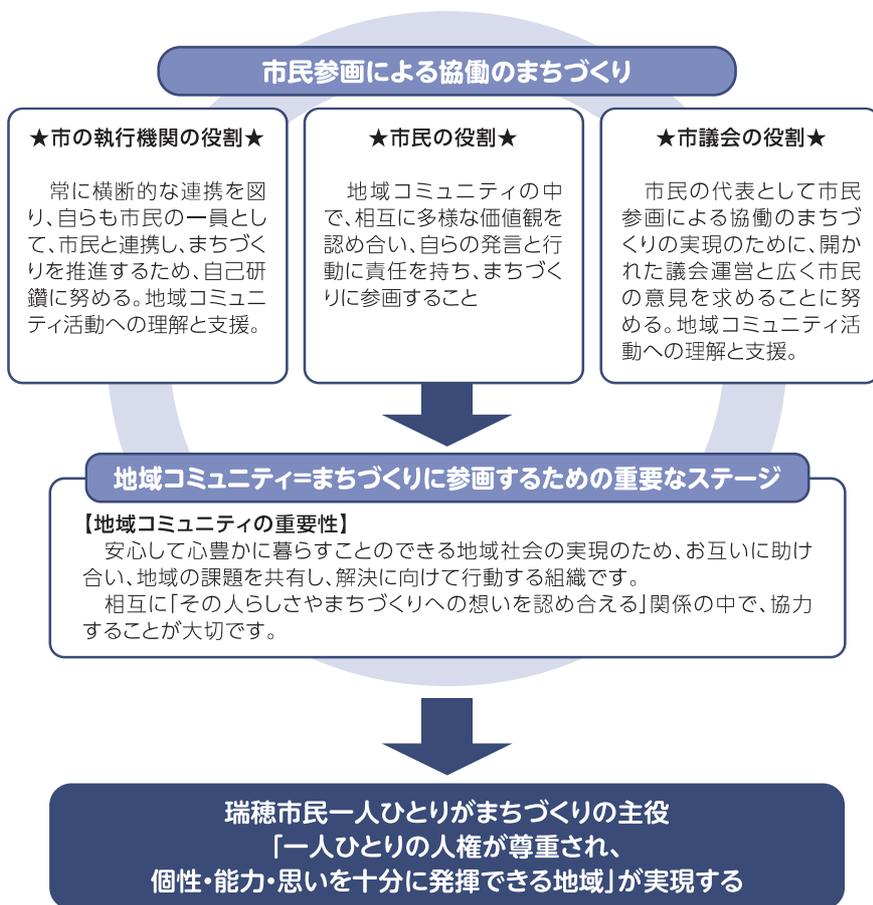
みんなで話し合いました！



タウンミーティングは、「瑞穂市まちづくり基本条例」に基づき、市政運営に市民のみなさんの意見が反映できるよう、小学校区ごとにテーマを決めて、行政と議会と市民が話し合う会です。

昨年からはじめ、今年2年目となったタウンミーティングでは、みんなで話し合ったことを、それぞれの地域課題の解決に向けて、市民のみなさんと行政が、協働で取り組む事業につなげることを目標として実施しました。

自治会長さんたちとのご相談で決めた校区ごとのテーマは、身近な地域の問題です。参加されたみなさんは、自分の問題として積極的にお話いただき、また他の方の意見に耳を傾けられました。



「瑞穂市まちづくり基本条例」とは「瑞穂市まちづくり基本条例」は瑞穂市のまちづくりの基本理念を定めたものです。市民参画により協働のまちづくりを推進することを目的としています。また、この条例では、協働を次のように定義しています。

図るため、市民が相互に、又は市民、市議会及び市の執行機関がともに、お互いの立場を尊重し、かつ、信頼し、協力して取り組むことをいいます。」
それぞれの立場で、できることは何なのか、それを一緒に考えながら、市民協働によるまちづくりは、一歩一歩進んでいくのです。
「まちづくり基本条例」の骨子について、簡単にご説明したのが左の図です。

～ タウンミーティングで話し合ったこと、これからつないでいくこと ～



本田校区 7月13日(土)

みんなの顔が見えるまちづくり～自治会の在り方を考えよう～

自治会は、共助の要。
地域の安全や老後のことを考えると、必要だと思う。
でも、状況(年代)によって、必要度も必要な理由も違う。ニーズが違う。
孫や子どもたちに故郷の思い出を作るのにも自治会は必要。
お祭り等の行事にみんな参加しよう。外国人も行事には参加する。
顔が見える関係ってお互いを知ること。
まずは向こう三軒両隣から始めよう。回覧板は顔を見て回そう。
そして外に出てみよう。散歩でもいいし、居場所があればなおいい。
みんな集まれる大きな公園もあると良い。
子どもたちも遊べるし、災害時には避難場所にもなる。
組の寄り合いや、食事会、飲み会など、同じ時間を共有しよう。
まずは小さいグループから、始めれば良い。ガヤガヤ話して分かり合う。
そこからお互いを理解して、助け合える関係になっていく。
【参加者 市民24人、議員4人、職員等19人】

中校区 7月28日(日)

みんなの居場所づくり～多様な交流を生み出そう(公民館活用大作戦)～

他人に関心を持たない。地域のつながりは薄くなっている。
だから地域の人の顔を知らない。
自治会の公民館に集まって、地域の人と知り合いたい。
でも、自治会の公民館は、大切にカギがかかっている。
だけど、一番馴染みがある自治会の公民館は、地域の居場所として一番適している。
台風の時でもそう。何故遠くの巣南公民館まで行かなくてはならないのか。
一番安心なのは、自治会の公民館。近所の知った顔と一緒に自治会公民館にいたい。
それから、特に子どもが自由に出入りできるようにしたい。
管理は、高齢の方にしてもらおうと良い。世代を越えた交流にもなるし、役割、社会参加できる場にもなる。
囲碁、将棋、カラオケ。本やDVD も用意できるといい。
子どもは勉強、宿題もできる。教えてくれる人もいる。
夢は広がっていく。
野菜の販売。フリーマーケット。子どもと高齢者の食堂。
東京オリンピックのパブリックビューイングをする。などなど。
【参加者 市民28人、議員4人、職員等19人】



生津校区 8月2日(金)

自治会の未来を考えよう～自治会 加入促進 大作戦～

災害時のことや日常の見守りや助け合いが、自治会に加入する意味。
でも自治会のメリットより、大変なこと「重いイメージ」がクローズアップされている。
役員は大変。役員を応援する仕組みがいる。共働き、子育て家庭への配慮も欲しい。
積極的に活動してくれる方の「横出しの組織」の活用もひとつ。
若い人と高齢者がペアになって役員をやれば、得意分野で支え合える。
もっと、自治会のメリットを若い世代や転入者に伝えたい。
転入者への説明会として「ウエルカムパーティー」を実施する。
行事への参加や、自治会加入の条件を柔軟にする必要もある。
今、自治会に求められているのは何か。目安箱を設置して意見の吸い上げ。
自治会や班でのワークショップやワールドカフェの実施も良いかもしれない。
住民のニーズに基づくサービス提供を考えたい。
魅力ある自治会となるためには、子ども参加のイベントが有効。
子どもと老人会のコラボ。男親の参加も重要だ。
自治会独自の子育て支援メニューを充実させると若い世代の関心が高まる。
歴史・文化・遺跡もあるが活用されていない。詳しい方にPR 役をお願いするのもいい。
何かやるには財源が必要。企業からの寄付金など独自財源の確保もこれからは考える必要がある。
【参加者 市民19人、議員1人、職員等18人】





～ タウンミーティングで話し合ったこと、これからつないでいくこと ～

西校区は、近所付き合いも良く、自然との調和もある。環境的に豊かで住みよいまち。でも、高齢化など、西校区の中でもそれぞれ状況は違う。行事が減り、参加者も減った。自治会に加入しない人もいる。「煩わしい近所づきあい」という考え方が抜けない。交流が少なくなると、自治会員の顔、暮らしの状況がわからない。親戚づきあいも減っている。

これからは、もっと「遠くの親戚より近くの他人」が大切になる。自治会がなくなるととんでもないことになる。今までどおりではなく1歩前へ進めたい。新しい関係をつくる方法を考える。自治会の未来のためには、若い世代にも役割を持ってもらうこと。声掛けから始めて、面白い行事や、つながりをつくる行事をやりたい。公民館を若い人に利用しやすくしたい。Wi-Fiができるようにすれば、災害時にも役に立つ。若い人がグループで楽しめるといい。

自治会でガヤガヤ会議(ワークショップ)をやって、キーパーソンをつくる。リーダー養成や人材の掘り起こし、結束を図ることにつながる。子どもが故郷に帰ってくるシステムづくりも勉強したい。何かやるためにはお金もいるが、第2層協議体の委託を受ければ資金もある。市と市民がwin-winの関係でやっていきたい。

【参加者 市民17人、議員3人、職員18人】

西校区 8月9日(金)

自治会の未来を考えよう
～自治会 加入促進 大作戦～



南校区 8月10日(土)

災害に備えるために ～今、何をすべきか～

世帯主はわかって、家族構成までは把握できていない。名簿づくりから始めたい。お隣にどんな人が居るのか把握する。町内会単位での会合を定期的に進めてつながりづくりを進めたい。関係づくりが大事なので普段の活動が大事。声掛けを積極的にして、仲良くなりたい。災害時に救助するためには、要支援者や独居老人の確認をまず進めたい。支援者との関係づくりも普段からが大切。大きな自治会は、アパートを含めとりまとめるのは、今の体制では無理。組織の在り方の検討も必要。リーダーとして動ける人を増やす必要もある。南小までの避難経路を実際に確認する。倒壊家屋等で通れなくなるなど想定する。南小学校だけでは全員は入れないし、そこまで行けないかもしれない。南小以外の避難所として自治会の公民館やお寺の利用を考えたい。防災無線が聞きにくい。行政に改善をお願いしたい。自治会として、食料、水の備蓄を考えていくので、行政の支援を要望したい。

【参加者 市民33人、議員3人、職員19人】



自治会の役割は、時代とともに変わってきている。

時代に合ったものに変えなくてはいけない。自治会規約、自治会と区の関係、自治会の組織、市と自治会との関係も時代に合っていない。自治会は非常時だけでなく、日常のつながりが大切。それが災害時にも生きる。大きな自治会ではアパートに誰が住んでいるかわからない。個人情報保護が壁となる中、要支援者の名簿をもらっても、共有し支え合いにつなげていく方法がない。新しい人、若い人にも、自治会の必要性を感じてもらい、自治会に関わってもらいたい。行政には、自治会に加入しないとダメな点をもっと説明して欲しい。子育てが一段落した世代だと、近所のつながりを持つ交流の場は、水路清掃の時くらい。人は面白いことがないと集まらない。集まって話せる場づくりを考える。若い世代の参加については、子どもの頃から市民協働の意識を育てることが必要。自治会役員の問題は、1～2年の短い任期であることと負担が大きいこと。役員を終えた方で、可能ならば相談役等、役員をサポートする立場として関わりを持ち続けて欲しい。行政からの自治会長の当選は減らして欲しい。仕事をしている自治会長が増えているので、裁判員制度のように社会制度として、必要な休みが取りやすいようコンセンサスが得られると良い。役員の負担を軽くするためには、役割分担が必要。それを話し合う機会を作ることが解決策。情報として、参考になる成功事例などをもっと公開して欲しい。穂積校区の中でも地域差があるが、今後も行政と一緒に考えていきたい。

【参加者 市民17人、議員4人、職員等16人】

穂積校区 8月11日(日)

自治会の未来を考えよう
～自治会 加入促進 大作戦～





牛牧校区タウンミーティングは悪天候のため実施できませんでした…

7月27日に予定をしていた牛牧校区のタウンミーティングは悪天候のため実施できず、本当に残念でした。牛牧友愛会との協働で「誰もが安心して暮らせる地域づくり～ひとりぼっちをつくらない・社会的孤立からの脱却～」をテーマに実施する予定でした。当日までの調整や準備にご協力いただいた牛牧校区の役員の皆様、当日参加を予定してくださっていた皆様、本当にありがとうございました。

スケジュールの調整が難しくすぐにはできませんが、来年2月頃に実施できるよう調整しています。決まりましたら、HP、回覧等でお知らせしますので、牛牧校区の皆様、積極的なご参加をどうぞよろしくお願いいたします。

●●● タウンミーティングを地域の絆づくりにつなげよう！ ●●●

タウンミーティングで市民のみなさんにお伝えしたかったことがもう1つあります。

それは、「地域コミュニティ」や「地域の絆」の大切さです。

市民のみなさんは、瑞穂市で生活しているという共通項で結ばれています。ベッドタウンと言われる瑞穂市ですが、それでも生活の拠点であることには違いありません。そして、子どもたちや高齢者の生活はより瑞穂市に密着したものです。

だから瑞穂市にもっとこだわってもよいのではないのでしょうか。どうしたらみんなの望むまちになるのかをみんなで考えてもいいのではないのでしょうか。

地域の中の様々な立場の人が集って、地域のことを語り、地域課題に立ち向かうこと。それが直接「地域コミュニティ」や「地域の絆」を作っていくことになるのではないのでしょうか。

「タウンミーティング」とは、ただそれだけのことです。でも、「みんなが集まって、顔を見て話すこと。」そこから全ては始まります。

そして、このタウンミーティングを今後のまちづくりへつなげて行かなくては いけません。タウンミーティングによって芽生えた市民のみなさん一人ひとりの気持ちを、地域の中で大きく育てていただけることを願っています。



みんなで手をつなごう！ほら、何かが始まるから…

人材育成研修のご案内

～多様な主体が関わってこそそのまちづくり！
あなたも一歩踏み出しませんか！～

地域を愛し、地域の人と人とのつながりを大切に、同じ思いの仲間と一緒に、あなたのまちづくりを学び、考え、実現しませんか？

研修は9月～12月毎月1回の4回シリーズです。初回の日程と講師は下記のとおりです。詳しいご案内をご希望の方は、市民協働安全課までご連絡ください。

第1回 9月17日(火) 19:00～21:00
総合センター第1・2・3会議室
講師：岐阜大学 地域協学センター長
益川浩一教授



自治会や校区で、 その続きを考えませんか？

タウンミーティングは2時間の限られた時間でした。その時間の中で地域課題の解決まで到達することは不可能だと思います。でも、きっかけやヒント、それから新しい人のつながりは確実にタウンミーティングから生まれています。それらを生かし、地域課題について、もう一度考える機会を、自治会や校区でぜひ作ってください。そして、何か始めてみませんか。市民協働のパートナーとして、行政もすべきサポートと一緒に考えたいと思いますので、お気軽にご相談お待ちしております。

●問い合わせ 市民協働安全課 ☎327-4130

基本目標	共通目標 持続可能な都市経営のまち
施策分野	③協働
施策の内容	まちづくりの担い手育成
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民が地域社会の一員であることを意識し、地域を良くしていくために自らができることを考え、活動することができるような啓発活動を実施します。 ・行政組織として市民協働安全課を設置し、まちづくりに関するセミナーの開催や研修等の事業を実施し、協働への意識向上を図ります。 ・まちづくりの担い手と連携を進める職員に対し、まちづくり基本条例に関する研修等を実施し協働への意識改革や能力の向上を図ります。
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ●まちづくり基本条例推進事業 (まちづくり活動組織の育成、まちづくり人材バンク、まちづくり人材養成講座) ●市民協働安全課の設置 (平成29年度事業完了)

目標値									
目標指標	単位	H27 (基準)	H28 (実績)	H29 (実績)	H30 (実績)	R1 (実績)	R2 (見込)	R7 (目標)	R12 (目標)
まちづくり人材バンク登録者 (H29実績まで)	人	-	0	0	66	61	70	80	130
人材育成研修参加者 (H30実績から)									

担当課	H28自己評価	H29自己評価	H30自己評価	H31自己評価
総合政策課	地方創生事業である「穂積駅圏域拠点化構想策定事業」を通じて、市民の自由参加のワイワイ会議を開催(22回)。市内の中学生駅周辺のまち歩きと構想づくりワークショップを開催。	昨年度からの「JR穂積駅圏域拠点化構想推進事業」のワイワイ会議を通して、まちづくりに関しての市民参画を図ることで、市民の地域づくりの環境を設けている。今年度からは、少年リーダー事業の参画を募り、社会教育事業と地域づくり・地域活性化事業との新しい連携も行った。ワイワイ会議では、穂積駅のまちづくりを考えるとともに、都市計画や建築規制をテーマ設定することで、まちづくりに関する勉強会も行い、駅周辺の将来像づくりを進めた。	H30、R1年度は「JR穂積駅圏域拠点化構想推進事業」の中で、駅周辺の自治会やまちづくりに興味がある方々、事業者と様々な取組(ほづみ夜市、一方通行化社会実験、自治会ワークショップ、ワイワイ会議)をとおして連携を強化してきました。令和2年度は、この連携をより強化・発展させ、「駅周辺の生活利便の向上やにぎわい創出などを考え、行動できる組織(まちづくり組織)」の設立を目指します。	
市民協働安全課	地域づくりを市民と共に実施していく地域づくり組織(エリア・マネジメント組織)に関するシンポジウムも開催し、多様な形での市民協働を行った。 29年度以降、地方創生事業を通してながら、駅周辺のまちづくりが出来る醸成と体制づくりを進めていく予定であり、まちづくり担い手の育成も図りたい。		「まちづくり基本条例」に基づき実施したタウンミーティングで、人材育成研修への参加を呼びかけた。 「地域の絆づくりを学ぼう」と題して全4回の研修会を実施し、延べ66人の参加があった。	「まちづくり基本条例」に基づき実施したタウンミーティングで、人材育成研修への参加を呼びかけた。 「多様な主体が関わってこそこのまちづくり!あなたも一歩踏み出しませんか!」と題して全4回の研修会を実施し、延べ61人の参加があった。

人材育成研修のご案内

～ あなたの小さな芽 「まちづくりの気持ち」を仲間と一緒に育てませんか ～

地域の絆づくりを学ぼう

先般のタウンミーティングにおきましては、ご参加いただき、また人材育成研修の受講について前向きにご検討いただき、ありがとうございました。

研修の内容につきまして、具体的な調整ができましたので、改めてご案内をさせていただきます。

みなさんの心の中に芽生えた、地域を愛し、地域の人と人とのつながりを大切に思う温かい気持ちを、同じ思いの仲間と一緒に、大きく育てていただくことをこの研修では目指します。

研修内容をご確認いただき、別紙「申込書」に必要事項をご記入のうえ、お申込みください。

研修は、第1回から4回までを全てご受講いただくことを基本としておりますが、ご都合により、ご参加の難しい回がある場合は、備考にご記入ください。

【研修内容】

<コーディネーター> ぎふNPOセンター 理事長 野村典博 氏

	日時・場所	内容
第1回	平成30年 9月20日 (木) 午後7:00～9:00	「地域の絆とは」 目的：地域の絆の重要性と地域と関わることの 必要性を認識する ・中川健史氏による講演・質疑応答 ・講演内容の意見交換 ・視察先の概要説明
	瑞穂市民センター 1階 第2会議室	
第2回	平成30年10月26日 (金) 午後1:00～5:00	「実際の活動を見よう」 目的：第1回講座内容のイメージをつかむ ・「NPO法人 つむぎの森」を視察
	市役所穂積庁舎 正面玄関前 集合	
第3回	平成30年11月8日 (木) 午後1:00～3:30	「様々な主体を知ろう」 目的：どうやって地域に関わっていくかをつかむ ・活動発表 ○自治会長 （芥見東自治会連合会 会長 山田正行 氏） ○社会福祉協議会委員 （八木山ささえあいの家 清水孝子 氏） ○地域に根差した方（土川商店 土川修平 氏） ・活動実践者によるトークディスカッション ・第2回・第3回の講座内容の意見交換
	瑞穂市民センター 1階 第2会議室	
第4回	平成30年12月6日 (木) 午後7:00～9:00	「地域づくりを考えよう」 目的：自分にできることを見える化する ・自分ができるとの検討 ・発表
	瑞穂市民センター 1階 第2会議室	

※第2回の視察の移動手段は、県公用車（マイクロバス）を使用します。

【問い合わせ】 瑞穂市役所 企画部 市民協働安全課 TEL058-327-4130

この研修は、岐阜県の「地域づくり人材養成講座」を活用し、県と瑞穂市が合同で実施します。



人材育成研修のご案内

～ 多様な主体が関わってこそそのまちづくり！あなたも一歩踏み出しませんか！ ～

みんなで手をつなごう！

ほら、何かが始まるから・・・



先般のタウンミーティングにおきましては、ご参加いただき、また人材育成研修の受講について前向きにご検討いただき、ありがとうございました。

研修の内容につきまして、改めてご案内をさせていただきます。

みなさんの心の中に芽生えた、地域を愛し、地域の人と人とのつながりを大切に思う温かい気持ちを、同じ思いの仲間と一緒に、大きく育てていただくことをこの研修では目指します。

研修内容をご確認いただき、別紙「申込書」に必要事項をご記入のうえ、お申込みください。

研修は、第1回から4回までを全てご受講いただくことを基本としておりますが、ご都合により、ご参加の難しい回がある場合は、備考にご記入ください。

【研修内容】

<コーディネーター> ぎふNPOセンター 理事長 野村典博 氏

	日時・場所	内容
第1回	令和元年 9月17日(火) 午後7:00~9:00 瑞穂市総合センター 5階 第1・2・3会議室	「若い世代の力を地域で生かす」 講師：岐阜大学地域協学センター長 益川浩一氏
第2回	令和元年10月 9日(水) 午後7:00~9:00 瑞穂市総合センター 5階 第1・2・3会議室	「子育て世代と地域との関わり」 講師：キッズスクエア瑞穂 理事長 梶浦良子氏
第3回	令和元年11月22日(金) 午後0:10~5:30 市役所穂積庁舎 正面玄関前 集合	「地域の活動を学ぶ」 講師 ・特定非営利活動法人 せき・まちづくりNPOぶうめらん ・田原みらいづくり協議会 ・あさひ夢のまち協議会
第4回	令和元年12月17日(火) 午後7:00~9:00 瑞穂市民センター 5階 第1・2・3会議室	まとめの会 講師：ぎふNPOセンター 理事長 野村典博氏

【問い合わせ】 瑞穂市役所 企画部 市民協働安全課 TEL058-327-4130